

琵琶湖 新発見

D I S C O V E R B I W A K O

暮らしと自然を守る 草津川放水路(新草津川)

琵琶湖にそそぐ草津川は全国でも代表的な天井川で、河床が高く家々の2階ほどの高さを川が流れています。そのため、これまで何度も洪水の被害にみまわれてきました。今建設中の草津川放水路(新草津川)は、草津川と金勝川の合流地点から琵琶湖に向けて5.5kmにわたって新しい水路を開削し、流域の治水を行うものです。平成13年度末には新放水路への切り替えが実現し、それ以降には、さらに全川に掘削・護岸工事が行われ、安全度の向上がはかれる予定です。

新草津川の開通に向けて、流域で暮らす人々がゆたかな自然と親しめるよう、さまざまな計画が打ち出されています。川沿いには桜並木、散策路、サイクリングコースを設け、水辺は魚や水鳥が住めるよう、自然に近い環境を整備。水質浄化や魚の産卵や稚魚の成育、水鳥の休息の場になるヨシ原も計画されています。

現在の草津川周辺は、江戸時代は東海道五十三次の宿場のひとつとして栄え、琵琶湖の生態系を支える河川のひとつとしても重要な役割をになってきました。新草津川もそうした歴史を受け継ぎ、地域の人々の暮らしにより溶け込む川として期待されています。

草津川放水路
主要プロジェクト位置図

